

## 平成 28 年度鳥取県（米子市）地域社会柔道指導者研修会

期間：平成 28 年 11 月 5 日（土）～6 日（日）

会場：鳥取県立武道館

参加者：65 名 ※中学校教員 3 名

派遣講師：鮫島元成 八段 中西美智子 六段



初日は鮫島講師による中学校武道必修化に特化した研修、2 日目は中西講師による国際審判規程の改正点の解説が行われた。

開会式に続いて、鳥取県教育委員会体育保健課・長尾慎二指導主事（専門・柔道）が「中学校武道必修化のねらいと課題」について講義を行った。

- ・ 武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視しており、これが武道必修化のねらいである。
- ・ 課題として、学習指導要領のねらいの実現、運動嫌いな子供を作らないようにする、質の高い授業の実践、若手教員をはじめとした指導者の資質向上や指導力強化などがあげられる。
- ・ 県内中学校 63 校の内、柔道実施校は 46 校。県立高校は選択授業で 24 校の内 12 校が柔道を実施している。24 年度の必修化完全実施以降、ほとんど変わっていない。
- ・ 県内中学校柔道部について、26 年度は男子 17 校 110 名、女子 11 校 44 名だったが、28 年度は男子 19 校 88 名、女子 8 校 21 名となっており、部員数減少の傾向がみられる。
- ・ 授業中の外傷・傷害について、27 年度は 24 件（骨折、捻挫、打撲等）の報告があったが、28 年度（10 月現在）は 0 件であり、研修会等の安全指導が効果をあげていると考えられる。

続いて、鮫島講師が講道館柔道の基本について、講義、実技を交えて指導を行った。

「柔道の目的を指導してほしい。具体的には、心身の鍛錬、技術の習得、修行を通じて人間の道を学ぶ。技術指導だけにならないよう意識を持つことが大切。柔道の基本は正しく組むこと、互いに組んだ状態で押したり引いたりを繰り返す、最初は30%くらいの力で徐々に力を入れていても、相手を倒すことはできません。柔道は力で倒すのではないということを学ぶことができます」

初心者に対する指導法に続いて、正しい受け身、さらに技の理合について解説した。

鮫島講師は「人の痛みをお互いに感じ、人間性を高め合う。それが柔道の魅力ではないか。柔道の目的は技術の向上、試合に勝つだけではなく、技術と人格の教育が伴って初めて柔道が人間教育であるといえます。柔道指導者として、これからも正しい柔道を伝えてください」と締めくくった。

#### ▽参加者の声

「米子市内14の中学校すべて体育授業で柔道を実施していますが、柔道部のある学校は3校。私は顧問をしています但部員は2名です。市内の中学校はすべて武道場を備えていますが、柔道場は畳を片付けて、剣道や他の競技に使われている学校が多いのが現状。柔道の魅力を子どもたちに伝えていきたいと思います」(男性・中学校教員)

「初心者への受け身の指導方法から、有段者への体捌き等の技術指導、指導者として身につけていなければならないことを多く学べて内容の濃い研修会でした」(男性・道場指導者)

